

資料4 「緑の現況分析と課題、今後の方向性」

機能別の緑の視点に基づく分析と課題

【機能別の視点について】資料1で示した“緑が果たす様々な役割”と、地球環境問題、生物多様性維持、国土強靱化、豊かな地域づくり、インフラの戦略的維持管理、少子高齢化、参画と協働社会への対応などの今日の社会的要請を踏まえて、以下の5つの分析の視点を設定しました。

機能別の視点	現 況	課 題
1. 生物多様性を 維持する緑	①本市では近年、自然の総量が大きく減少 ②本市の生態系の頂点である猛禽類の生息地や個体数の減少が危惧 ③本市の生物生息地の骨格的な自然地が分布 ④利根川河川敷にはヤナギの自然林、冠水性草原が、山林にはコナラやアカマツなどを主体とする二次林など良好な自然が分布 ⑤土地被覆の舗装化等により、河川流量や湧水量が減少し、水辺の生物生息環境が悪化 ⑥市民活動では、里山活動・自然との触れ合いが少ない。	①本市に残された生物の繁殖や採餌、移動経路となる緑を生物生息地の骨格的な自然地として効果的に保全していくことが必要（エコロジカル・ネットワーク）である ②湧水や湿地、自然林・自然草原など良好な自然地を保全することが必要である ③緑に触れ学ぶ機会や情報の充実が必要である
2. ヒートアイランド 現象を 緩和する緑	①過去 40 年間で猛暑日が増加傾向にあり、都市気象が顕在化 ②まとまりのある樹林地等では、冷涼な空間が形成され、しみ出し効果によるヒートアイランド現象の抑制が期待 ③緑被の少ない中心市街地では、ヒートアイランド現象が顕著	①冷涼な空間（クールスポット）を形成する樹林地、河川、水田等の緑を保全していくことが必要である ②市街地では、地表面温度を下げる緑化を進めることが必要
3. 災害を 緩和する緑	①森林では、管理不足により、森林の育成や防災面に影響が生じている。（照度不足による森林の単層化、表土流出、土砂崩れなど） ②市街化に伴う土地被覆の舗装化等により、降雨時の河川流量が増え、水害リスクが増加 ③緑化された広幅員の道路、まち中の社寺地や学校等は、延焼を遮断する機能を有す。また広い公園や学校グラウンドは避難場所として重要な役割を果たす。	①土砂災害や洪水から市民生活を守る山林や農地、都市公園や社寺境内地等の緑地を保全することが必要である ②面的な治水対策として都市的土地利用における雨水浸透機能を改善する必要がある ③地震や風水害などの災害に備え、今後のまちづくりでは延焼遮断機能を有す緑を守るとともに、防災機能の強化を図る必要がある。
4. 地域の景観を つくる緑	①里山や田園、旧街道や元小山川、社寺や古墳など、本市の歴史を今日に伝える景観資源も数多く分布 ②斜面林や屋敷林などの民有林は良好な景観を構成するものが多い。一方、管理に要する費用の補填等、保全支援を求める意見あり。 ③街路樹は、まちの美観の向上や緑陰をつくるなど重要な役割を果たしているが、植栽の管理や歩道の維持など管理上の問題が近年顕在化している。 ④巨木は、金鑽神社、城山稲荷神社等の社寺を中心とした 68 箇所に点在しており、保全策が講じられていないものがある。	①本市の歴史文化を今日に伝える景観資源について、引き続き将来世代に引き継いでいくことが必要である ②巨木・古木、まち中の民有林等は、保全策を講じる必要がある ③美観向上と持続的な維持管理の両立を図る道路緑化の今後のあり方について検討する必要がある
5. レクリエーション の場となる緑	【配置】 ①本市の身近な公園は、着実に整備量が増加。維持管理コストは増大 ②身近な公園が整備されていない区域がある。この区域では「身近な公園の満足度」が低い。 ③本市は公園から連続する河川、社寺境内地など公園に準じる機能を持つ空間が多く存在 ④今後の都市公園のあり方として、「ストック効果の向上」が重視されている。 【機能】 ①身近な公園における遊具の充実度が低い評価。特に子育て世代の評価が低い。 ②市民が望む公園は、40 歳代以下は「カフェや売店のある公園」「遊具が充実している公園」が、40 歳代以上は「散歩やジョギングを楽しめる公園」が多い ③公園愛護会は、メンバーの高齢化や活動人数が減少する団体が多く、活動の持続性が課題。 ④公園の利用度による評価では、工業団地周辺の公園、古墳公園のほか、狭小公園において利用度が低い傾向。また、地域住民の関わりが希薄な公園が存在 ⑤本市では、多くの公園が整備から長期が経過し、施設老朽化等の課題を抱える。 ⑥公園緑地分野における「今後優先すべき施策」では、「街路や川沿いを緑化」に続いて、「大きなレクリエーション空間を充実」、「身近な公園をリニューアル」が上位	①レクリエーションの場となる公園などの緑の充実と公園管理コストの削減の相対する課題に対応する必要がある ②身近な公園充足のニーズは高いが、公園分布の偏りや質的な問題により公園サービスが行き届かない区域が存在 ③レクリエーション空間として河川や社寺地などの地域の緑のストックが活用されていない ①健康維持の場、魅力的な休息の場など、市民ニーズに合わせた公園機能の配置を検討する必要がある ②民間活力や地域コミュニティの積極的な参画による持続的な公園経営が必要である ③利用度の低い公園、管理水準の低い公園を更新する必要がある ④市民による公園の維持活動を支援する必要がある

次期「本庄市緑の基本計画」の方向性の組み立て（案）

	機能別の視点	方向性	目 標	想定される施策展開 【保】：保全施策、【整】：整備施策、【育】：育成施策 ※実施中、○実施中（拡充予定）、◎新規
1	生物多様性を維持する緑	□多様な生き物が息できる環境形成を図る	■エコロジカルネットワークを踏まえた保全	【保】○良好な自然の保全（湧水や河川、良好な里山環境等）
		□生物多様性を維持する必要性について、市民の理解を深める	■緑や自然を体験できる機会の充実（環境教育）	【育】※環境教育の実施 【育】※自然を体験できる機会の充実 【育】◎緑に対する市民の関心と理解の促進
		□緑を保全する担い手を育成する	■緑をまもり、つくり、そだてる担い手となる人材の育成	【育】○公園愛護会活動や里山保全活動などの協働プログラムの充実 【育】※企業、学校などの緑の活動の支援 【育】◎緑化講習やボランティア育成講座
2	ヒートアイランド現象を緩和する緑	□市街地の緑地がもつ力を活かしたまちづくりを進める	■夏季の市街地の地表面温度を下げる	【育】※緑のカーテンコンテストの実施 【保】◎市街地内の緑の保全 【整】◎市街地の緑化推進（本庄駅周辺等）
		□（緑を含む）市のヒートアイランド対策の考え方（方針）の整理	■緑・緑地以外の諸対策を抽出した上で、目標（値）達成に向けた対応の促進	【育・保・整】◎市のヒートアイランド対策の検討 【育・保・整】○本庄市地球温暖化対策実行計画での緑・緑地の在り方を検討
3	災害を緩和する緑	□農林地がもつ力を活かした地域づくりを進める	■保水機能、土砂流出防止機能を保つ（強化する）	【保】○農林地の保全（無秩序な開発の防止、木材利用の促進等の振興施策）
			■延焼防止を叶える緑地の有効活用	【保】○農地の保全（延焼防止機能） 【整】○道路（河川）の緑化（延焼防止機能）
		□市街地の緑地がもつ力を活かしたまちづくりを進める	■オープンスペースの有効活用	【整】○避難場所等となる緑地の有効活用・整備等
			■市街地における雨水浸透機能や保水機能を高める	【整】○雨水浸透・保水を促す開発指導（浸透マスの設置、雨水貯留施設の設置、レインガーデンや雨水浸透性能のある舗装材の普及）
4	地域の景観をつくる緑	□地域の緑の継承を図る	■公民連携策の拡充	【育】※花苗や苗木の配布などによる市民の緑化活動の支援 【保】※ほんじょう緑の基金の設置 【保】◎保存樹等、良好な景観を形成する民有林の支援 【育・保・整】◎市の景観形成方針の検討
		□本庄の緑の景観の魅力発信を図る	■本庄の緑の景観の魅力発信、認知度の向上	【育】◎緑の景観の魅力、活動内容の情報発信
		□市民ニーズに応じた道路・河川緑化を図る	■景観向上と効率的な維持管理の両立	【整】◎道路・河川の緑化方針の策定
5	レクリエーションの場となる緑	□周辺の公共施設や民間施設との連携を図る（配置と機能の充実）	■周辺の公共施設や民間施設にあるオープンスペース、遊具トイシなどの有効活用	【整】◎都市公園の配置と機能の再編の検討
		□民間活力を利用した魅力的な公園づくりと持続的な公園経営	■民間活力の利用	【整】※指定管理者制度の活用・充実 【整】◎民間事業者等と連携した公園整備と経営
		□多様な市民ニーズに応える公園機能の充実	■都市公園の活性化と交流の促進	【整】○公園施設の充実（運動施設、遊具） 【整】○ユニバーサルデザインによる公園整備 【育】○公園の情報発信 【育】○公園を利用したイベントの充実 【育】※公園愛護会活動などの協働プログラムの充実